

# トンボ保護に「励み」

## 岩井里山の会 NPO 法人認可

### 桶ヶ谷沼を整備



「トンボの楽園」として知られる磐田市岩井の桶ヶ谷沼で、絶滅危惧種のベッコウトンボを守る活動をしている岩井里山の会（加藤佐登志理事長）が、NPO法人として認可された。会員約二十人は「保護活動の励みになる」と話している。（宮沢輝明）

もとは市から沼周辺の観察路の除草作業を依頼された地元の有志の団体。一九九四年に発足した。九七年にベッコウトンボの個体数が百匹を切ったのを機に、積極的に保護活動に取り組みようになった。

アメリカザリガニの大発生が原因だと分かると、餌になる落ち葉を減らそうと周辺の木々を伐採。ザリガニが土中から潜り込まない

水路脇の雑草を刈り取ったり、水路の底の泥をすくい上げたりする  
会員＝磐田市岩井で

ようにと、木の板を埋め込んで升を作ったり、直径一メートルほどの網のわなを仕掛けたりし、トンボのヤゴを守っている。

週一回ほどの活動はすべて手弁当だ。民間での活動には限界があるとNPO法人化を目指す、六月末に知事の認可を受けた。

会員は七日、升に流れ込む水を増やそうと、沼地に足を取られながら、水路脇の雑草を刈り取ったり、水路の底の泥をさらったりした。

橋本知準副理事長（右）は「子どもたちが沼で楽しんでくれるような環境をつくりたい」と作業に励んだ。

# アナ雪や 棚田にキ

(c)中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています